



島根県中山間地域研究センター情報誌

# Chu-San-Kan チュウサンカンプレス press

研究の森から中山間地域を応援します

2011  
Summer  
Vol.1

あたらしい情報誌、できました。

特集

なにしてるってところ？もっとみんなに知ってほしい！

## 中山間地域研究センター

撮影場所 浜田市弥栄町

# センター情報誌の創刊にあたって

島根県中山間地域研究センター 所長 土谷 清治



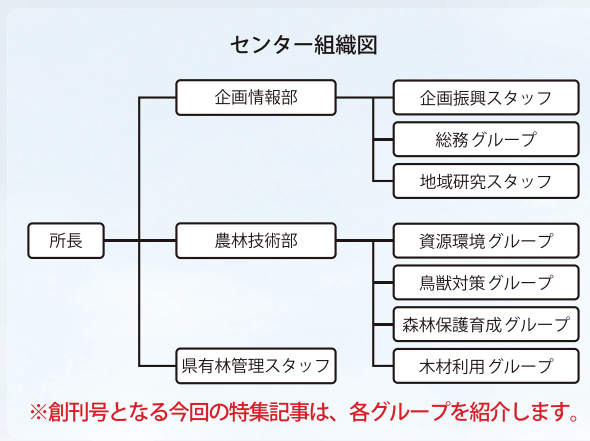
島根県中山間地域研究センターは、中山間地域の活性化を図るため様々な分野を横断し、総合的、専門的に調査研究する全国で唯一の研究機関として平成10年に設置されました。

当センターは、設立当初から中山間地域を「生命地域」としてとらえ、各研究員が実際に地域に入り、住民の皆さんと一緒に調査研究に取り組むとともに、得られた成果を積極的に県の内外に情報発信をしてきました。

中山間地域を取り巻く状況は、小規模高齢化集落の増加や耕作放棄地、森林の荒廃、鳥獣被害など依然厳しいものがありますが、一方で農林産物など地域資源の活用、国土保全機能や環境保全機能などの役割も期待されています。

当センターでは、豊かな自然や歴史・文化を育んできた中山間地域の再生を目指し、今後ともその役割を果たしていきたいと思っています。

さて、今般、当センターが行っている調査研究や研修事業の内容などを皆さんに分かりやすくお伝えするため、季刊誌「Chu-San-Kan press」を発行することにいたしました。是非ご愛読いただきますようお願いいたします。







# 地域現場の仕組みづくりを応援！

地域現場で県民や市町村の方と一緒に、人・自然・歴史とのつながりが息づいている中山間地域の持続可能性を改めて発見・共有する中で、新たな定住の舞台となる地域づくりを応援しています。



■ 旅客・貨物を同時に運ぶデマンドバスの運行実験



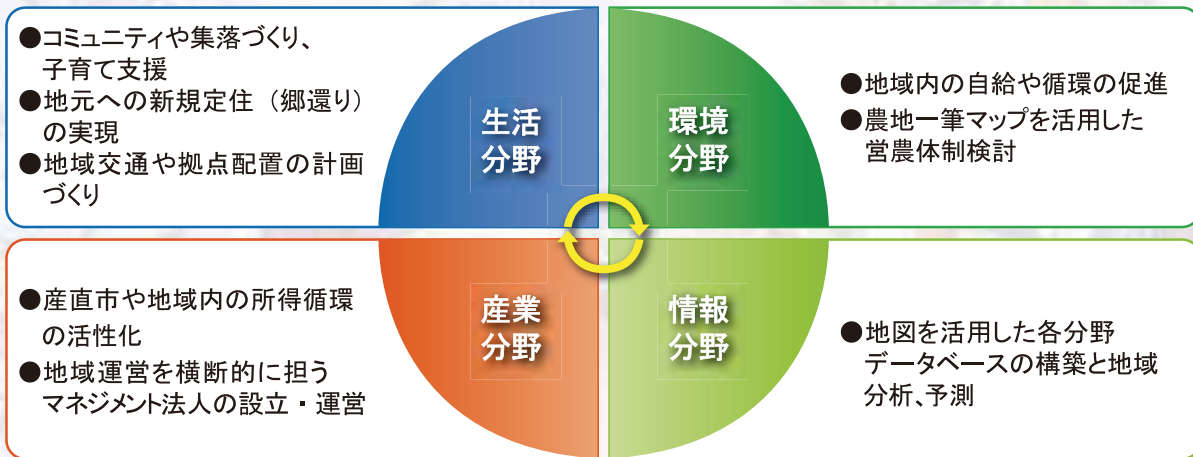
■ 集落支援員スキルアップ研修

## ■ 持続可能なコミュニティの再構築

各地の持続可能なコミュニティづくりを支援しています。特に、次世代の新規定住に必要な生活、産業、環境の仕組みづくりを、現場での実践的なモデルづくりを中心に、分野横断で研究しています。

## ■ 集落支援員等の研修会や分野別研究

各地に配置された集落支援員や地域おこし協力隊を対象とした研修会を、企画振興スタッフと共同で、年5回程度行っています。また、主に市町村職員を対象とした交通や防災などの分野別研究会を、年に2～3回、開いています。



## ■ 地図を利用したわかりやすい計画づくり

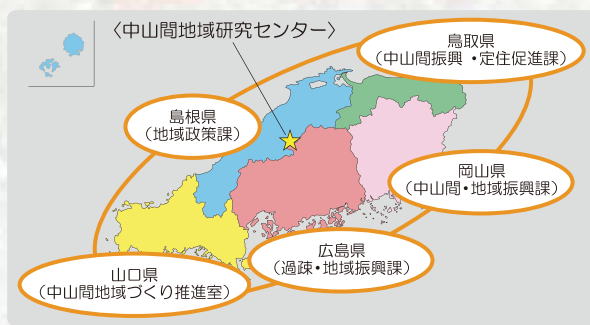
GIS というコンピューターの地図システムと詳細な航空写真等を使って、わかりやすく営農や交通の計画づくり、鳥獣対策などを進める仕組みを開発しています。



■ 農地一筆マップを使った営農計画づくり

## ■ 広域的な地域連携の取り組み

中国地方における研究ネットワークの核として、県境を横断した知恵の共有化や人材育成の共同化を進めています。他県からの職員派遣もいただく中で、広域的な「つなぎ役」を果たしています。



■ 5県が手をつなぎ共同研究・事業を展開しています





ここ(中山間地域)に住み続けるためのものづくり



■黒大豆のエダマメ



■幻のきのこ ショウロの栽培

島根県の面積の約8割は、平坦な土地の少ない中山間地域です。そこには人口の約4割の人が住んでいます。降雪量が多いとか、田んぼや畑の面積が狭いとか、平野部に比べ不利な条件が多いとされていますが、ものづくりには欠かせない豊かな資源がたくさんあります。

標高が高くて夜と昼間の気温の差が大きいとおいしいお米ができます。また、里山にはたけのこや山菜、きのこだけでなく、クロモジなどの香りの良い木もあります。一方では使う人がいなくなって荒れた山や農地が増えてきました。

これからのものづくりでは、作る人と使う人との結びつきが重要になります。黒大豆のエダマメや、ショウロを特産品にするため、生産から販売までのコーディネート考えた取り組みをしています。

また、土地が荒れてくると住んでいる人も不安になります。竹林や荒廃農地を再生して、管理されなくなった地域の人の居住空間を拡大するために、安い費用で楽に土地の管理ができて、収入も得られるような手法が求められています。人力の代わりに牛を使うのも一つの手法です。

資源環境グループは、農業・林業・畜産すべての視点から、地域に住む人たちが安心して暮らせる環境づくりとものづくりを目指しています。



■耕作放棄地でトウガラシを栽培



■刈払機のかわりに牛を使う！





## 集落ぐるみの対策の推進を目指して



■ニホンジカの群れ

本県の鳥獣類による農林作物への被害は、平成8年度の3億3千万円をピークに減少傾向でしたが、22年度は8年ぶりに大きく増加して、1億4千万円にも達しました。このうち、イノシシやニホンザルなどによる被害は甚大なため、中山間地域での集落の維持にまで悪影響を及ぼしています。



■ツキノワグマの親子

このような状況の中で、鳥獣対策グループが発足して9年目を迎えました。これまで、イノシシ、ニホンジカ、ニホンザルおよびツキノワグマの生息動向や被害実態、効果的な被害対策などについての調査研究を行ってきました。また、近年は特定外来生物であるアライグマやヌートリアの生息域の拡大による問題も大きくなって、これらの生息実態などの調査も行っています。

このうち、特定外来生物は、根絶を目指した徹底した捕獲対策が不可欠です。一方、在来の鳥獣類は、誘引物の除去などの「集落環境の整備」、電気柵などの「防護柵の設置」および個体数管理のための「捕獲」の3つの対策をバランス良く行って、被害発生を低減する必要があります。そして、これらの対策を効率的で効果の高いものにするには、「集落ぐるみ」で継続的に実施することが重要です。

今後は、「集落ぐるみの対策」を推進するための「仕組み作り」や「人材育成」にも取り組んでいきたいと考えています。目指す目標は、生物多様性の保全も考慮した「人と野生鳥獣との共存」です。



■捕獲されたアライグマ



■早朝の河川に現れたヌートリア





# 豊かな森を育み木材生産を応援します！

島根県は県土の8割が森林におおわれる全国第3位の森林県です。この森林は下に挙げるように私たちの生活に関わるたくさんの役割を担っています。

- 洪水や濁水を防ぐ
- 温暖化を防止する
- 土砂くずれを防ぐ
- 人々に安らぎをあたえる
- 強風から家屋を守る
- 木材を生産する

しかし、森林が十分に手入れされなくなると、病虫害や自然災害などの被害を受けやすくなり、これらのはたらきが失われ私たちの生活にも大きな影響が及びます。



■松くい虫被害林

森林の持つ役割が最大に発揮され、私たちが豊かな生活を営むためには森林資源を適切に管理し、利用していく方法を考えなければいけません。

森林保護育成グループでは、松くい虫などの害虫から森林を守る方法、木を「植えて、育て、伐る」の循環のなかでの最も効率的な作業方法、また災害に強い森林環境の造成方法などについて研究しています。







■スギ準不燃材料の燃焼試験



■スギ製材品の強度試験

中山間地域の大部分は森林で占められています。この森林では、現場作業員の方が毎日、木を伐って、原木として山から運び出しています。そして、街の製材工場や合板工場に運ばれて、製材品や合板に加工されて、私たちの暮らしの中で役立てられています。

木材利用グループでは、街の製材工場や合板工場といった木材を扱う産業において、より良い、より魅力ある製品が生産できるように、技術面での支援を行っています。

例えば、木造住宅を建てる時に使われる柱や梁といった製材品は、あらかじめ乾かして使う必要があります。こうした製材品を乾かす時に、水分のばらつきが少なくきちんと乾くように、また、材の表面に割れが発生しないような乾燥技術の開発を行って、製材工場の方にお伝えしています。



■床暖房にも使えるクロマツフローリングの評価試験

また、近くの山に豊富にあるスギを安心して家造りに使っていただけるように、スギ材の強度試験を行って、強度的に安全な製材品の寸法を建築に携わる方にお知らせしています。

その他、現在研究中ですが、住宅の床暖房に使えるクロマツのフローリングを試作して性能を調べたり、集会所の天井や壁などにも使える燃えにくい材料として、スギ準不燃材料の開発も進めています。



■スギ製材品の人工乾燥

木材産業の「売れるものづくり」を支援します！

# 何でも情報コーナー



## 島根中央高校の体験学習

平成20年度から毎年センターで体験学習を実施している島根中央高校地域創造コースの2年生が今年もいらっしゃいました。事前オリエンテーションでセンター視察、その後は3つのグループにわかれ体験学習を行いました。

森林保護育成グループ班はセンター構内で伐採を体験、木材利用グループ班はブックスタンドの作成です。

そして左の写真は、資源環境グループ班。牛舎での仕事を体験中の様子です。

このような話題をはじめ、センターホームページ内「今日の一言コラム」コーナーでは、センターの一日を随時配信中です。ぜひ覗いてみてくださいね。

## 情報求む!

当センターでは、県内のアライグマに関する情報提供をお願いしています。

みかけたら

**0854-76-3818**

(鳥獣対策グループ)

まで連絡下さい。



顔の黒いマスクが特徴

尻尾の縞模様が特徴

## 飯南町に「森のホテル」OPENしました♪



今まで皆様にご愛顧をいただきました島根県民の森研修館ですが、このたび平成23年4月29日に「森のホテル もりのすき」が飯南町の施設としてリニューアルオープンを致しました。森の木々に囲まれた環境で身体にやさしく心地よいひとときをおもてなしいたします。

ぜひ皆様ご来館ください。

詳細については、下記までお問い合わせください。

■『森のホテル もりのすき』

〒690-3403 島根県飯石郡飯南町小田842-2 Tel & Fax 0854-76-3119

## センターで視察・研修をされませんか

集落や自治会、公民館、地域づくり団体等の研修事業として、センター施設の見学や、センターの研究分野に関連した研修を希望される場合には、センターを会場として研修を実施しています。

詳しくはホームページをご覧ください。

## 編集者のつぶやき…

もっと中山間を知ってもらおう!というコンセプトのもと、どうしたら皆様にわかりやすく伝えられるだろう、親しみのある広報誌ができるだろうと何度も編集会議を重ね、十分に産みの苦しみを味わいました(笑)。そのおかげで、自信を持てる内容になっています。何とか無事に創刊できましたことを、心からお礼申し上げます。これからも皆様に新鮮な情報をお届けするためにスタッフ一同がんばりますので、どうぞ末永くご愛読のほどお願いいたします。

(M・I)

## 次号 特集予告

【県有林管理スタッフ】  
【資源環境グループ】

県民の森へ行こうよ! 秋のイベント情報  
秋の味覚! 絶品「黒大豆エダマメ」

島根県中山間地域研究センター情報誌

Chu-San-Kan press  
研究の森から中山間地域を応援します

2011  
Summer  
Vol. 1

編集・発行  
島根県中山間地域研究センター  
〒690-3405 島根県飯石郡飯南町上来島1207  
TEL 0854-76-2025 FAX 0854-76-3758

WEBで検索 島根県中山間地域研究センター 検索